平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月11日

上場会社名　ソースネクスト株式会社　　上場取引所　東
コード番号　4344　URL　http://www.sourcenext.com
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 松田　憲幸
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　アドミニストレーショングループ担当執行役員　(氏名) 青山　文彦　TEL 03-6430-6406

四半期報告書提出予定日　平成23年11月11日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　(証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	2,556	56.3	109	―	103	―	91	△42.6
23年3月期第2四半期	1,636	―	△450	―	△472	―	159	―

(注)包括利益　24年3月期第2四半期　91百万円　(△42.6%)　23年3月期第2四半期　159百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	576.67	―
23年3月期第2四半期	1,004.82	―

(注)23年3月期第2四半期連結会計期間より連結財務諸表を作成しているため、23年3月期第2四半期の前年同四半期増減率については、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	2,949	422	14.3
23年3月期	2,942	330	11.2

(参考) 自己資本　24年3月期第2四半期　422百万円　23年3月期　330百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	0.00	―	0.00	0.00
24年3月期	―	0.00			
24年3月期(予想)			―	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,015	25.5	210	―	181	―	168	8.9	1,061.00

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	158,660 株	23年3月期	158,660 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	― 株	23年3月期	― 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	158,660 株	23年3月期2Q	158,660 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報(その他)に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 5
４．四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 9
（３）継続企業の前提に関する注記 ……10
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済活動や個人消費の停滞が見られ、依然と厳しい状況が続いております。

当社を取り巻く環境においては、JEITAの発表によると、当第２四半期連結累計期間におけるパソコン出荷台数は、前年比108.8％と横ばいで推移しております。

また、パソコンソフトウェア市場に関しましては、当第２四半期連結累計期間において、店頭実売実績は前年比85.2％と厳しい状況で推移いたしました（※）。

こうした状況の中、当社グループは従来の主力製品である「ウイルスセキュリティ」の店頭展開に注力すると共に、急速に市場を伸ばしているスマートフォン用のアプリケーションの販売を開始いたしました。スマートフォン用のアプリケーションは、インターネットでダウンロードするのが通常ですが、パッケージ化して店頭に展開し、手にとれるものにすることでより多くのお客様に手軽に安心してアプリケーションを使っていただけるよう開発した新しいシリーズです。平成23年９月においては、「Android厳選アプリ」シリーズとして10タイトルを発売いたしました。直販サイト「ソースネクストeSHOP」においては、既存の「ウイルスセキュリティ」シリーズのユーザー582万人（平成23年９月末現在）に対し、オプションとして、バックアップ機能及びファイルの安全消去などが行えるツールの販売を開始いたしました。こうした施策により、当第２四半期連結累計期間の売上高は25億56百万円となり、経常利益は１億３百万円となりました。

※平成23年４月～９月ジーエフケーマーケティングサービスジャパン調べ
全国有力家電量販店の販売実績の集計結果

① 売上高

主力製品である「ウイルスセキュリティ」シリーズの販売促進に注力いたしました。店頭市場においては、引き続き店頭在庫の適正化の徹底、販促物の見直し等による訴求力のアップを図り、当第２四半期連結累計期間の店頭販売本数については、前年比111.9％となり、製品別累計販売本数シェアも、平成23年1月～9月において、16.25％と第１位を獲得いたしました。また、パソコンソフト以外の新規事業として、スマートフォン用アプリケーションの販売を開始し、「Android厳選アプリ」シリーズとして、10タイトルの新製品発売、既存のユーザー資産を活かし、「ウイルスセキュリティ」シリーズのユーザー582万人（平成23年９月末現在）に対し、オプションとして、バックアップ機能及びファイルの安全消去などが行えるツールをインターネット上で簡単に申し込みができるよう、新規発売いたしました。これらにより、当第２四半期連結累計期間の売上高は25億56百万円（前年同四半期比56.3％増）となりました。

② 売上総利益

従来より進めておりました店頭在庫の適正化及び生産プロセス・出荷プロセスの見直しにより、返品が大幅に減少しております。その結果、返品調整引当金及び製品評価損が減少し、当第２四半期連結累計期間における売上総利益は、13億76百万円（前年同四半期比34.7％増）となりました。

③ 営業利益

本社地代家賃の削減に加え、業務委託費、販売促進費等を中心に販売費及び一般管理費のさらなる圧

縮に努めた結果、販売費及び一般管理費は前年同四半期比13.9%の削減となりました。その結果、当第２四半期連結累計期間における営業利益は、１億９百万円（前年同四半期は営業損失４億50百万円）となりました。

④ 経常利益

当第２四半期連結累計期間における経常利益は、１億３百万円（前年同四半期は経常損失４億72百万円）となりました。

⑤ 四半期純利益

当第２四半期連結累計期間における四半期純利益は、91百万円（前年同四半期比42.6%減）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ７百万円増加し、29億49百万円となりました。流動資産は、１億37百万円増加して18億85百万円、固定資産は、１億29百万円減少して10億64百万円となりました。

流動資産の増加の主な要因は、現金及び預金の減少86百万円、商品及び製品の減少92百万円、受取手形及び売掛金の増加３億22百万円によるものであります。固定資産の減少の主な要因は、償却による減少が取得を上回ったことによるものであります。

当第２四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末に比べ84百万円減少し、25億27百万円となりました。流動負債は、55百万円減少して25億16百万円、固定負債は28百万円減少して10百万円となりました。

流動負債の減少の主な要因は、買掛金の増加48百万円、未払金の減少32百万円、返品調整引当金の減少14百万円、社債償還による1年内償還予定の社債の減少50百万円によるものであります。固定負債の減少の主な要因は、長期借入金の1年内返済予定の長期借入金への振り替えによるものであります。

当第２四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ91百万円増加し、４億22百万円となりました。純資産の増加の要因は、四半期純利益91百万円によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

PCセキュリティソフト製品別累計販売本数シェアにおいて第２四半期累計期間連続第１位を獲得した「ウイルスセキュリティZERO 1,980円」と、既存のウイルスセキュリティユーザーに対するバックアップ機能などの追加販売が好調であったこと、及び、「Android 厳選アプリ」シリーズを平成23年９月16日より販売開始したこと、並びに、販売費及び一般管理費の効率化を推し進めた結果、予想を大幅に上回る売上高及び利益を達成いたしました。

第３四半期以降も引き続き第２四半期累計期間までの施策を推し進め、通期業績につきましても売上高は前回発表を上回る見込みであります。しかしながら、経済状況の先行き見通しが不透明であることを鑑み、営業利益、経常利益、当期純利益は、平成23年５月19日に公表いたしました連結業績予想と同等の水準としております。

２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当第２四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日)

当社グループにおける当第２四半期連結累計期間の売上高は、25億56百万円と前年同期（前第２四半期連結累計期間の売上高は16億36百万円）に比べて増加しております。また、損益面においても、当第２四半期連結累計期間の営業利益は、１億９百万円と前年同期（前第２四半期連結累計期間の営業損失は４億50百万円）に比べて大幅に改善しております。

しかしながら、過年度におきましては、平成21年３月期の第３四半期より平成22年３月期まで、市況の悪化により、当社グループ製品の出荷先である家電量販店や流通代理店が在庫調整を進めたこと、平成23年３月期には、一部のPC環境ではあるものの「ウイルスセキュリティ」シリーズの不具合が平成22年４月に発生したため、プロモーション活動を自粛したことなどが影響し、前連結会計年度の売上高は39億95百万円と、前々事業年度(単体)64億28百万円に比べて減少しております。このような状況により、損益面では固定費をカバーすることができず、前々事業年度(単体)８億38百万円、前連結会計年度４億２百万円と回復傾向にあるものの通期では連続して営業損失を計上しております。

財務面においては、事業計画の達成状況により、借入金の借換等の資金調達に影響を与える可能性があります。また、金融機関一行については、一連の契約変更手続きに時間を要しており、現時点においては返済条件の変更契約が未締結となっております。そのため、見直し協議中である現状の契約通りには返済が履行されていない状況となっております 。

これらの状況から継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を解消すべく、平成23年９月より「Android厳選アプリ」シリーズとして10タイトルを発売し家電量販店等の店頭に展開するなど、iPhone、iPad、Android携帯等のパソコン以外のデバイスに対応した製品の新規企画・開発・拡販を行なっております。また、既存製品についても、主力製品である「ウイルスセキュリティ」の戦略的価格付けによるシェア及びユーザー数の大幅な拡大を図っております。さらに、「ウイルスセキュリティ」シリーズのユーザーに対する追加機能等の販売により、収益の拡大を推し進めております。これらの他、当社グループでは、採算性の高い販売チャネルへの集中、プロモーション強化、継続的かつ効果的なコスト管理といった収益拡大及び費用削減のための施策を進めており、財務面においては借入金の借換等の資金調達及び返済条件の契約変更に取り組んでおります。

４．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	434,314	347,937
受取手形及び売掛金	625,964	948,454
商品及び製品	394,737	302,473
原材料及び貯蔵品	24,924	27,739
前渡金	218,975	169,987
その他	48,278	88,511
流動資産合計	1,747,194	1,885,103
固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	183,429	184,232
減価償却累計額	△108,525	△124,278
有形固定資産合計	74,903	59,954
無形固定資産		
ソフトウエア	623,406	691,887
その他	302,126	135,909
無形固定資産合計	925,532	827,797
投資その他の資産	193,783	176,696
固定資産合計	1,194,219	1,064,447
繰延資産		
繰延資産合計	1,019	－
資産合計	2,942,433	2,949,551
負債の部		
流動負債		
買掛金	214,897	263,156
短期借入金	348,267	403,550
1年内返済予定の長期借入金	1,318,682	1,256,282
1年内償還予定の社債	50,000	－
未払金	313,741	281,621
未払法人税等	6,757	6,244
返品調整引当金	110,153	95,528
アフターサービス引当金	69,097	59,903
その他	140,021	149,867
流動負債合計	2,571,618	2,516,155
固定負債		
長期借入金	25,000	－
その他	14,879	10,966
固定負債合計	39,879	10,966
負債合計	2,611,498	2,527,121

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,771,226	1,771,226
資本剰余金	1,611,226	1,611,226
利益剰余金	△3,051,518	△2,960,023
株主資本合計	330,935	422,430
純資産合計	330,935	422,430
負債純資産合計	2,942,433	2,949,551

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	1,636,217	2,556,742
売上原価	908,085	1,194,953
売上総利益	728,132	1,361,789
返品調整引当金繰入額	207,427	95,528
返品調整引当金戻入額	501,315	110,153
差引売上総利益	1,022,020	1,376,414
販売費及び一般管理費	1,472,115	1,267,105
営業利益又は営業損失（△）	△450,094	109,308
営業外収益		
受取利息	34	44
為替差益	7,115	16,037
その他	777	599
営業外収益合計	7,927	16,681
営業外費用		
支払利息	24,229	21,418
その他	6,053	1,191
営業外費用合計	30,282	22,609
経常利益又は経常損失（△）	△472,449	103,380
特別利益		
固定資産売却益	588,774	－
ロイヤリティ契約変更差益	78,885	－
特別利益合計	667,660	－
特別損失		
前渡金評価損	－	10,662
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	2,083	－
過年度業務委託費確定額	32,550	－
特別損失合計	34,633	10,662
税金等調整前四半期純利益	160,577	92,718
法人税、住民税及び事業税	1,151	1,223
法人税等合計	1,151	1,223
少数株主損益調整前四半期純利益	159,425	91,494
四半期純利益	159,425	91,494

四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	159,425	91,494
四半期包括利益	159,425	91,494
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	159,425	91,494

（３）継続企業の前提に関する注記

当第２四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日)

当社グループにおける当第２四半期連結累計期間の売上高は、2,556,742千円と前年同期（前第２四半期連結累計期間の売上高は1,636,217千円）に比べて増加しております。また、損益面においても、当第２四半期連結累計期間の営業利益は、109,308千円と前年同期（前第２四半期連結累計期間の営業損失は450,094千円）に比べて大幅に改善しております。

しかしながら、過年度におきましては、平成21年３月期の第３四半期より平成22年３月期まで、市況の悪化により、当社グループ製品の出荷先である家電量販店や流通代理店が在庫調整を進めたこと、平成23年３月期には、一部のPC環境ではあるものの「ウイルスセキュリティ」シリーズの不具合が平成22年４月に発生したため、プロモーション活動を自粛したことなどが影響し、前連結会計年度の売上高は3,995,664千円と、前々事業年度の売上高(単体)6,428,669千円に比べて減少しております。このような状況により、損益面では固定費をカバーすることができず、前々事業年度(単体)838,930千円、前連結会計年度402,163千円と回復傾向にあるものの通期では連続して営業損失を計上しております。

財務面においては、事業計画の達成状況により、借入金の借換等の資金調達に影響を与える可能性があります。また、金融機関一行については、一連の契約変更手続きに時間を要しており、現時点においては返済条件の変更契約が未締結となっております。そのため、見直し協議中である現状の契約通りには返済が履行されていない状況となっております 。

これらの状況から継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を解消すべく、平成23年９月より「Android厳選アプリ」シリーズとして10タイトルを発売し家電量販店等の店頭に展開するなど、iPhone、iPad、Android携帯等のパソコン以外のデバイスに対応した製品の新規企画・開発・拡販を行なっております。また、既存製品についても、主力製品である「ウイルスセキュリティ」の戦略的価格付けによるシェア及びユーザー数の大幅な拡大を図っております。さらに、「ウイルスセキュリティ」シリーズのユーザーに対する追加機能等の販売により、収益の拡大を推し進めております。これらの他、当社グループでは、採算性の高い販売チャネルへの集中、プロモーション強化、継続的かつ効果的なコスト管理といった収益拡大及び費用削減のための施策を進めており、財務面においては借入金の借換等の資金調達及び返済条件の契約変更に取り組んでおります。

しかし、当社グループの売上は、エンドユーザーの需要動向の変化、量販店を始めとする各小売店の在庫戦略や競合他社の状況にも影響されることがあること、借入金の借換等の資金調達及び返済条件の契約変更については、現在関係者との協議を進めている途上であるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。